

## 2013年度自己点検・評価活動 —さらなる実質的な活性化と「創造的」取り組みへ—

自己点検委員会副委員長・現代福祉学部長 中村律子 1

### 2013年度大学評価結果(教学部門) 2~3

### シリーズ「学士力の質保証を考える」対談(第5回): 「学生の習得度に寄り添う地道な教育の取り組みと構成員の連携」

大学評価室長 八名和夫 × キャリアデザイン学部長 金山喜昭 4

### 2013年度 新入生アンケートの結果から 5~6

活動報告／編集後記 6



自己点検委員会副委員長  
現代福祉学部長  
中村 律子

#### MESSAGE 1

### 2013年度自己点検・評価活動 —さらなる実質的な活性化と「創造的」取り組みへ—

本年度の全学的な自己点検・評価活動は、2つの側面で実質的な活性化に繋がったのではないかと思います。一つは、2012年度に大学基準協会の認証評価結果において提言された「努力課題」事項に対して、具体的な改善計画を策定し、その具体的実施に向けて動き出すなど、教育研究の質的向上に繋がったことです。二つ目は、2013年度は、第I期(2010~2013)中期目標の最終年度にあたるため、その中期目標に対して総括を行ったことによる効果です。とりわけ、例年実施している自己点検懇談会では、各学部の進捗状況の報告だけでなく、特色のある教育内容や教育方法の情報共有により、各学部が教学改革の視点や戦略目標を具体化

するなど相乗効果をもたらしたことです。

グローバル競争の激化は、大学の教育内容や教育方法について、従来の統一(標準)モデルから独創的戦略的なものへの転換を要請しています。その意味でも、自己点検それ自体が目的化するのではなく、大学、大学院の教育、理念及び目標についての教学改革とその戦略、質的転換が重要になります。自己点検・評価活動を「制度的」なものとしての位置づけだけでなく、それ自体が大学としての「創造的」な取り組みであるという認識を持つことで、自己点検・評価活動はさらなる意味を持つものとなるでしょう。

## 2013年度大学評価結果（教学部門）

八名委員長が総長に報告

大学評価委員会では、本年5月より「2013年度評価計画」に基づき学部等の評価を進めてきましたが、その結果を9月4日の常務理事会に「大学評価報告書（教学部門）」として提出いたしました。

ここでは、その中から、八名委員長による総評を編集して掲載いたします。



### 2013年度自己点検・評価活動（教学部門）の総評

大学評価委員会委員長 大学評価室長 八名 和夫

#### 1 2013年度自己点検・評価活動について

本年度の自己点検・評価活動の方針として、「認証評価結果への対応」「本学2012年度自己点検・評価活動への対応」「第Ⅰ期中期目標（2010～2013年度）の総括」の3つを自己点検委員会で定め、自己評価の項目としては「教育課程・教育内容」「教育方法」「教育成果」「教員・教員組織」「学生の受け入れ」「内部質保証」に絞って実施した。以下に、方針ごとの教学部門に関する自己点検・評価の進捗及び結果を紹介する。

##### (1) 認証評価結果への対応

昨年度の認証評価では提言事項として11の努力課題が付された。その対応は、現在各自己点検単位において検討を始めた段階にある。検討結果をもとに各自己点検単位で本年度策定する各点検単位の第Ⅱ期中期計画に反映頂くべきものであると認識している。

また、学部・大学院における質保証委員会の設置については自己点検・評価システムとして高い評価を受けたものの、「組織的な統一とフィードバック方法の確立が望まれる」との指摘がなされた。そのため、今後は質保証委員会の実質化に向けた懇談を実施し各学部の取り組みの情報共有を推進する予定である。大学院コースワークの充実については教学上の大きな方針にかかわる事項であり、認証評価で指摘されたというだけの理由で受動的に進めるというのではなく、全学的に方向性とコンセンサスをとりながら取り組む必要がある。

##### (2) 本学2012年度自己点検・評価活動指摘事項への対応

###### ①教育課程・教育内容に関して

すでに多くの学部でコースを設ける、履修モデルを明示するなど履修科目の体系化が進んでいるが、科目ナンバリングを導入し、他大学との連携、国際的互換を視野にいれた体系化が図られている学部はグローバル教養学部（GIS）に限られる。全学的にカリキュラムの一層の体系化が望まれる。

経営学部の将来の職業を見据えた科目履修ガイダンス、「経営学部生のための就職活動準備講座」は在学中に身に付けるべきコンピテンシーを将来のキャリアと結び付けて学生に明示するユニークな取り組みとして評価される。またデザイン工学部における科目履修シミュレーションプログラムの開発は学生の科目履修を支援する上で有用と思われる。

###### ②教育方法に関して

学習時間の確保について、全学的には年間の履修登録単位数の上限を50単位未満に設定し、シラバスの必須項目に「授業外に行うべき学習活動」の欄を設け、各科目で予習・復習すべき内容を周知する等の施策がなされ、個別にはデザイン工学部や生命科学部で実習室、実験室を開放し授業時間外の学びを支援するなどの試みがあるが、十分とは言えない。特色ある教育方法として情報科学部のグループワーク講義・リクエスト講義、キャリアデザイン学部ピアアドバイザー制度、国際文化研究科のコロキウム「ひろく」実施、国際文化学部の国際社会コース独自パンフレット・英語学習ハンドブック・チュートリアル自己評価シートの作成、文学部の「振り返りシート」「リアクションペーパー」の組織的活用などは高く評価される。

###### ③教育成果について

昨年度自己点検・評価の結果、各学部において教育目標に則した学習成果の達成を測定する指標を明確にし、学生と教員の双方が教育成果を確認できるようなシステムづくりを推進することが望まれるとの指摘がなされた。スポーツ健康学部における必修科目に対する習熟度テスト、キャリアデザイン学部における成績検証のための独自テスト、デザイン工学部におけるJABEE対応達成度評価システムの開発などの試みが見られ、評価されるが、なお限定的である。

###### ④教員・教員組織に関して

大学院の充実が今後の課題であることを考慮したとき、専門教育科目の教員の新規採用に際して、大学院担当を明確に意識した採用方法を考慮する必要があるが多くの研究科で教員採用時に大学院を担当することについて明示しており、評価される。

### ⑤内部質保証に関して

大学院研究科は質保証委員会を設置することが課題であるが、多くの研究科で質保証委員会が設置され、未設置の研究科についても今年度設置予定であり、成果が認められる。しかしながら、質保証委員会が実質的に機能するように大学として推進することが大きな課題と言える。内部質保証の個別の取り組みとして、比較経済研究所と日本統計研究所は外部評価を実施（または今年度実施を予定）しており、今後の自己点検を考える一つのモデルケースと考えられる。また、文学部・生命科学部等にみられる学部全体での相互授業参観の積極的な実施も、教育の質保証の観点から高く評価される。

### ⑥通信教育部について

本年度より通学課程の教育水準に準ずるカリキュラム改訂がなされた点、特に文学部日本文学科ではカリキュラムを文学・言語・芸能文化の3コースに再編成し、カリキュラムの体系性を高めている点は評価される。またWebによる学習相談、メディアスクーリングの充実なども進んでおり、これらの試みの成果について継続して推移を見守りたい。

### ⑦研究所について

昨年度の自己点検・評価より、各研究所から（1）研究・教育活動の実績、（2）対外的研究成果、（3）社会的評価（4）外部からの研究所評価、（5）社会的評価、（6）外部資金獲得状況について現状分析の提出を求めている。今後、各研究所が横断的に連携をとって、法政大学の研究所総体として研究成果を挙げることが望まれる。この意味で昨年度後期に、大学附置研究所の研究所長が情報を共有する場として研究所長会議が発足したことは評価される。

### (3) 第I期中期目標（2010～2013年度）の総括への対応

現在、本年度が最終年度となる中期目標の総括に各点検単位で取り組んでいるが、例年実施している自己点検懇談会において各学部の進捗の報告を求め情報共有した。

## 2 結びに

本年度の自己点検・評価で浮かび上がった問題点を整理する。

質保証に関して大学院各研究科に質保証委員会が設置され、主たる教学主体すべてにおいて内部質保証の体制が構築できたことは評価される。また、文学部が大学院の国際日本学インスティテュートと連携し学部生を国際シンポジウムに参加させ、留学生との交流の場を提供したことは学部・大学院連携、国際化等、今後の自己点検・評価に将来を見据えた新しい視点を加える優れた試みであると評価される。堅実な取り組みとして、各学部における入門ゼミや基礎演習の設置のほか、各種導入科目が設けられ初年次教育が充実していることが認められた。

一方、改善が望まれる主な点としては（1）各学部・研究科の質保証委員会の実質化、（2）学習時間の確保及び学習成果を測定するための評価指標の検討、（3）大学院の定員未充足・超過の問題、（4）大学院博士後期課程におけるコースワーク、リサーチワークの明確化などを挙げることができる。

## 2013年度大学評価委員会委員および評価員

### I 大学評価委員会委員

区分	氏名	所属学部等
委員長	八名和夫	大学評価室長
副委員長	佐藤良一	経済学部教授
委員	浜村彰	大学評価室担当常務理事
	河野康子	法学部教授
	宮川雅	文学部教授
	水野節夫	社会学部教授
	熊田泰章	国際文化学部教授

委員	吉田長行	デザイン工学部教授
	長田敏行	生命科学部教授
	生和秀敏	公益財団法人大学基準協会特任研究員
	塚田茂	学校法人駒澤大学執行理事（財務担当）・財務局長
	松原康雄	明治学院大学副学長・社会学部教授
	結城章夫	国立大学法人山形大学学長
	吉野政美	監査室長

### II 評価員

氏名	所属学部等
和田幹彦	法学部教授
菅沢龍文	文学部教授
利根川真紀	文学部教授
中島弘一	文学部教授
長原豊	経済学部教授
橋本到	経済学部教授
白鳥浩	社会学部教授
奥武則	社会学部教授
鈴木武	経営学部教授
鈴木晶	国際文化学部教授
梶裕史	人間環境学部教授
小池誠彦	情報科学部教授

小門裕幸	キャリアデザイン学部教授
安藤直見	デザイン工学部教授
高見公雄	デザイン工学部教授
西岡靖之	デザイン工学部教授
江崎和博	理工学部准教授
平原誠	理工学部准教授
西尾健	生命科学部教授
藤重博美	グローバル教養学部准教授
安藤正志	スポーツ健康学部教授
今村公勇	総務部総務課長
細田泰博	学務部学部事務課長
蛸島慎一郎	多摩事務部現代福祉学部事務課長
志田成也	研究開発センター市ヶ谷事務課長

## シリーズ「学士力の質保証を考える」対談（第5回）： 学生の習得度に寄り添う地道な教育の取り組みと構成員の連携

八名 和夫 [大学評価室長] × 金山 喜昭 [キャリアデザイン学部長]

各学部における教育の質保証に向けた取り組み・成果について、大学評価室長と学部長との対談形式でお伝えするシリーズ。今回は、2012年度に創立10周年を迎えたキャリアデザイン学部の金山喜昭学部長にお話を伺いました。

### 充実したアドバイザー体制と100文字シラバス

**八名** 1年生に対して先輩学生をピアアドバイザーとする履修相談会を開催しているとのことでした。

**金山** 履修の仕方がわからない新生にとつて、通常のガイダンスや履修の手引きに加え、先輩学生が直に相談に乗ってくれるピアアドバイザー制度は心強い存在となっており、さらに2年生秋学期のゼミ履修を具体的に視野に入れることにも役立っているようです。この他に、キャリアアドバイザー3名が学習全般や就職などの相談を、キャリアサポートアドバイザー2名が授業科目「キャリアサポート実習」の学習相談を受けています。アドバイザーは教員とも連携しています。

**八名** 充実した学習指導体制ですね。ところで、100文字シラバスを作成しているとのことですが、どういったものですか。

**金山** 学部教員や兼任講師、学生などが学部の授業内容を一目で体系的に見ることができれば便利だろうということで作成しました。通常のシラバスは分量が多くて一部しか読まれないことが多いですが、100文字であればカリキュラム全体における各科目の位置づけが容易にわかります。3領域を色分けしていますので、領域ごとの専門的な内容を段階的に理解するのにも役立ちます。

本日お見せしているのは2012年度版ですが、現在、最新版に改訂中です。改訂版はホームページに掲載し、新入生ガイダンスでも配付予定です。兼任講師にはFD研修で配付します。

**八名** 学習指導やFDに活用でき、優れた取り組みだと思います。貴学部ではFD研修、年4回のFDミーティング、教授会内での「私の授業論」発表、授業参観など、FD活動が活発だという印象を受けました。



100文字シラバス

### 学習成果の還元と学部認定資格「地域学習支援士」

**金山** 実習系の科目では、事前学習の前後と実習の前後に1回ずつ、合計4回Career Vision and Action Test (CVAT) を課しています。学生が項目ごとに自己採点する方式のテストで、事前学習前から実習後までの自身の習得度の変化がわかります。また、「キャリアサポート実習」や国内外インターシップの成果発表会、ゼミ発表会等の機会も多く設けています。

**八名** CVATは学生に経過的に自己評価をさせることで、実習の意義をフィードバックしていると思います。通常のテ

ストやCVATだけでなく、様々な取り組みを組み入れ、学習成果を学生に還元していることもわかりました。ところで「地域学習支援士」とは何の資格ですか？

**金山** 本学部独自の認定資格です。地域の人々のつながりの大切さが再認識される現代において、生涯学習や社会参加、文化創造、コミュニティ形成など、地域での人々の学びと成長を支援する“地域コーディネーター”の実践的な力を認定する資格です。学部創設10周年を機にカリキュラムを改訂し、この資格取得に必要な科目を設置しました。

**八名** 学士力やコンピテンシーを目に見える形で打ち出す取り組みだと思えます。

### 学部運営で大切なこと

**八名** とところで学部運営に資する情報を経年的に蓄積しているとのことでした。学部内IRの先進的な取り組みと思えます。

**金山** せっかく優れた教育を共有するイベントなどを行っても、そこで得られた共通認識は一過性になりがちだと感じます。

そこで質的な情報の共有に加えて、指標に基づく数値的な情報を学部内で共有するため、4大項目「3つのポリシー」「学部運営」のもとに中項目を立て、数値データを経年的に入力して一覧表にしました。例えば、カリキュラムポリシーでは「ゼミ」「海外留学」「論文制作」等の中項目にそれぞれ様々な数値データを入れています。学部事務が容易に収集できるシンプルなデータであることがポイントです。

また各数値指標の意味などを議論するため、FDミーティングでは必ず一覧表を配付して意見を出し合うようにしています。地味ですが、地道に継続して検証していければと思っています。

学部マネジメントで大切なのは、目標や指標を設定して全教員が力を結集していくこと、それらの設定や実現のために組織内での意思疎通を充分に図れるようにすることではないでしょうか。

**八名** 学部の優れた取り組みがよくわかりました。本日はありがとうございました。



金山キャリアデザイン学部長(左)、八名大学評価室長(右)

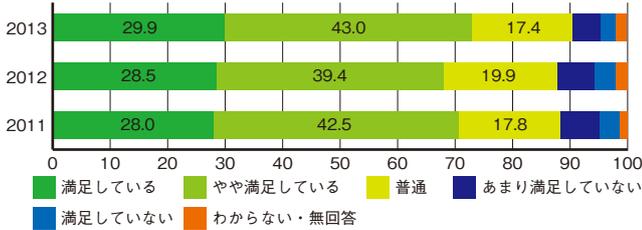
# 2013年度 新入生アンケートの結果から

## 年度比較を中心に

大学評価室では、2013年6月から7月にかけて、新入生を対象としたアンケートを実施しました。アンケート結果の中から一部抜粋し、満足度の年度比較を中心に紹介します。[有効回答数：5,175件(回収率：81.9%)]

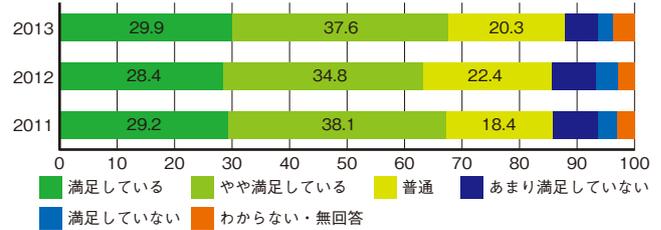
### I 法政大学および入学学部に対する満足度

図1：法政大学に対する満足度 全学 (%)



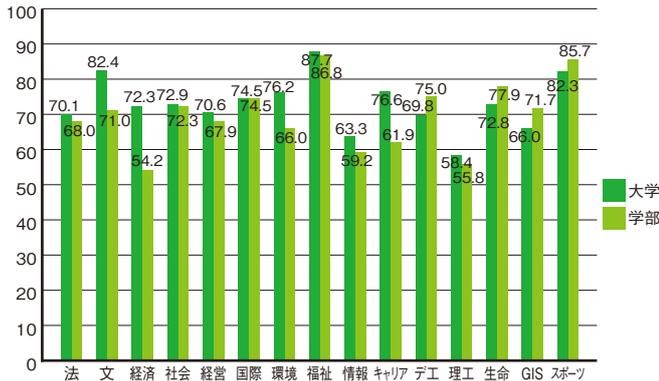
大学満足度は、2012年度と比べ、「満足している」(29.9%) が1.4%増、「やや満足している」(43.0%) が3.6%増でした。

図2：入学学部に対する満足度 全学 (%)



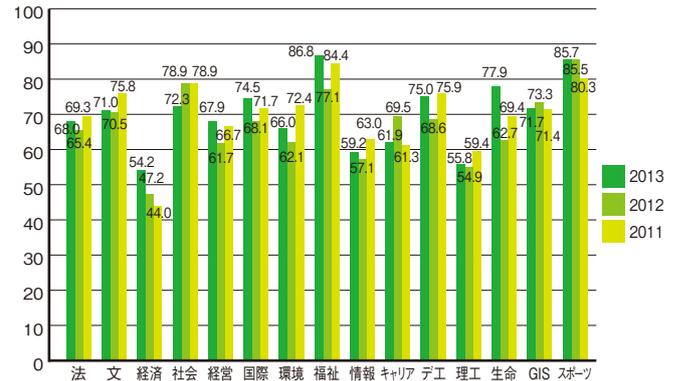
学部に対する満足度(「満足している」と「やや満足している」の合計、以下同様)が67.5%となり、2012年度(63.2%)に比べ4.3%増となりました。

図3：学部別の満足度比較 (%)



大学満足度は、現代福祉学部(87.7%)、スポーツ健康学部(82.3%)で8割を超えました。その他の学部も概ね7割を超えています。その一方で、理工学部(58.4%)のみ6割未満という結果となりました。

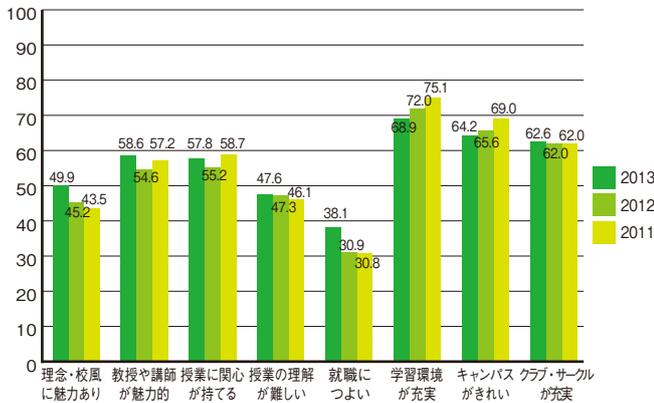
図4：入学学部に対する満足度の年度比較 (%)



15学部中12学部で前年度を上回りました。そのうち経済学部(44.0→47.2→54.2)、スポーツ健康学部(80.3→85.5→85.7)では3年連続で満足度が上昇しました。

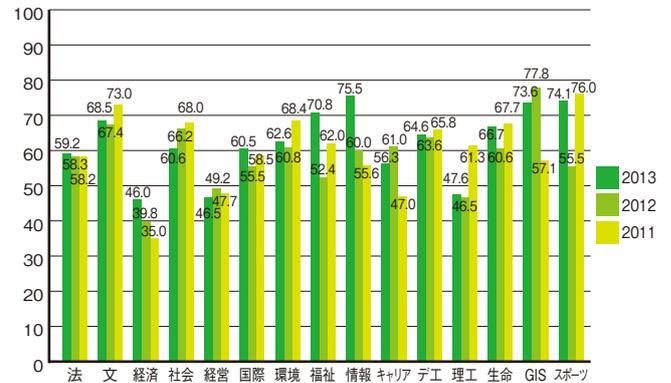
### II 法政大学および入学学部について

図5：法政大学および入学学部についての感想 「そう思う」+「いくらかそう思う」の合計 全学 (%)



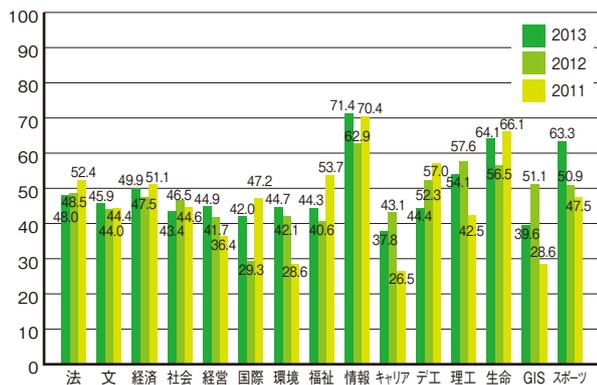
「授業の理解が難しい」と感じる学生について昨年度同様上昇が続いています(46.1→47.3→47.6)。「就職につよい」と感じる学生は昨年度から7.2%上昇していますが、昨年度までと同様に4割を切っており低い割合を示しています。

図6：授業に関心がもてる (学部別年度比較) (%)



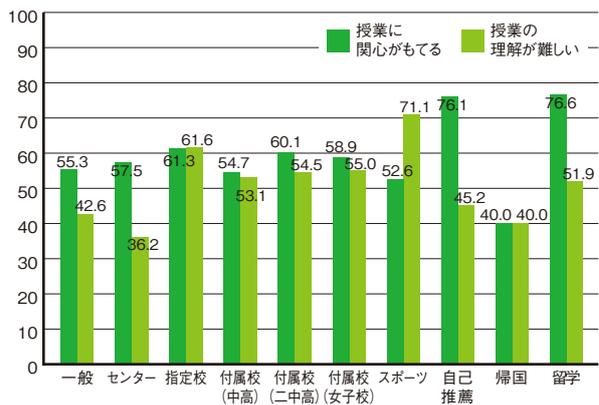
肯定的回答は、情報科学部(75.5%)が最も高く、スポーツ健康学部(74.1%)、GIS(73.6%)、現代福祉学部(70.8%)で7割を超えました。経済学部(46.0%)、経営学部(46.5%)、理工学部(47.6%)では5割未満となりました。

図7: 授業の理解が難しい (学部別年度比較) (%)



「授業の理解が難しい」と回答した学生は3年連続で情報科学部(71.4%)が最も多く、生命科学部(64.1%)、スポーツ健康学部(63.3%)と続いています。

図8 「授業に関心がもてる」と「授業の理解が難しい」の入学経路別集計 (%)



「授業に関心がもてる」は、自己推薦(76.6%)、留学(76.6%)で高く、「授業の理解が難しい」では、スポーツで7割以上が難しいと回答しています。

アンケート結果については、大学評価室ホームページに掲載しています。

## 活動報告



### 2013年度自己点検・評価報告書(教学部門)を刊行しました。

2013年度の自己点検・評価活動の成果をまとめた「2013年度自己点検・評価報告書(教学部門)」を刊行しました。各学部等の自己点検結果、大学評価委員会の評価結果を記載しています。一昨年度までは年度末に発行していましたが、評価活動が前倒しになったことにより、昨年度からは約半年で評価結果を取りまとめ、報告書を刊行しています。報告書は各運用単位の責任者に配布したほか、大学評価室ホームページでも公開しています。秋学期からの各運用単位における質保証活動での利用が期待されます。

#### <今後の予定>

##### 保護者アンケートの実施

11月以降に保護者アンケートの実施を予定しています。

##### 大学評価室セミナーの実施

2013年度内に第14回大学評価室セミナーの開催を予定しています。詳細が決まり次第、大学評価室ホームページ等でお知らせいたします。

編集  
後記

2013年度の大学評価が確定し、自己点検・評価活動が無事に終了しました。ご協力いただきました皆様に御礼申し上げます。今回初めて自己点検・評価報告書を取りまとめさせていただきましたが、大学を知る上でも非常に有用な資料だと実感しました。各運用単位では自己点検・評価報告書を改善・改革の一助としていただくことはもちろん、若手の事務職員の方々にも目を通していただければと思います。ホームページでも公開していますので、ぜひご覧ください。(坂本)

